

膵頭十二指腸切除術後の非アルコール性脂肪肝出現の予測因子の検討 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2020年6月15日～2021年12月31日

〔研究課題〕

膵頭十二指腸切除術後の非アルコール性脂肪肝出現の予測因子の検討

〔研究目的〕

膵頭十二指腸切除術は膵癌・胆道癌などに対する標準術式です。当院では年間30例前後施行されていますが、術後に非アルコール性脂肪肝(Nonalcoholic fatty liver disease: NAFLD)と呼ばれる病態が認められており、重症例では肝硬変に至り死亡例も報告されています。肝切除後の急激な代謝障害がその原因の一つと示唆されていますが、そのメカニズムや予後への影響は明らかではありません。本研究では当院における膵頭十二指腸切除術施行症例の臨床データを用いてその予測因子を後方視的に明らかにすることを目的としています。

〔研究意義〕

術前の検査所見などからNAFLDの出現リスクの予測ができれば早期からの治療介入が可能となる可能性があります。

〔対象・研究方法〕

帝京大学医学部附属病院にて2012年1月から2018年12月の間に、膵頭十二指腸切除術を施行した症例を対象とします。膵頭十二指腸切除術を施行した症例を非アルコール性脂肪肝発症例と非発症例とに分けて予後と検査所見を統計学的手法を用いて比較します。また、どのような因子が予後に重要かについても検討します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部外科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

本研究で患者様のデータを取り扱う際は、個人情報保護に十分配慮します。研究の成果を公表する場合は、患者様を特定できる情報を含まないようにし、本研究の以外の目的で患者様のデータを使用することはありません。10年保管後に破棄します。本学患者様がデータ使用拒否を申し出た場合、情報は速やかに削除します。

〔その他〕

本研究は後ろ向きの観察研究であり、患者様に費用負担および健康被害は生じません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者： 帝京大学医学部外科学講座 教授 佐野圭二

情報管理責任者： 帝京大学医学部外科学講座 准教授 和田慶太

住所： 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表) 〔内線 7631〕